

PACCON 2014 報告記

株式会社 小川商会 樋口慶郎

2014年1月8日から10日、タイ東部コンケン（Khon Kaen）の Centara Hotel and Convention Center Khon Kaen で Chemical Society of Thailand 主催、コンケン大学創立50周年記念事業として開催された、Pure and Applied Chemistry International Conference (PACCON 2014)に参加してきたので、簡単ではあるが概要を報告する。“Moving Towards Innovation in Chemistry”をPACCON 2014のメインテーマとして、タイ国内のみならず世界中から23か国1000名を超す大学研究者、企業関係者、学生が一堂に会し、化学の異なる分野の様々な視点で調査、議論を深めることを目的にして開催され、日本からも多くの研究者が参加した。個人的には2年前のPACCON 2012（チェンマイ）に受田浩之先生（高知大農）、竹内正樹先生（徳島大薬）と一緒に参加して以来2回目の参加であった。

プログラム構成は、以下の通り化学のほとんどの分野が網羅されている。

Analytical Chemistry, Inorganic Chemistry,

Organic and Green Chemistry, Natural Products, Chemical Biology and Medical Chemistry, Physical and Theoretical Chemistry, Materials Science and Nanotechnology, Polymer and Petroleum Chemistry, Environmental Chemistry and Renewable Energy, Food and Agricultural Chemistry, Industrial Chemistry and Innovations, Chemical Education.

JAFIA はタイ FIA グループと深い絆を形成していることは今さら言うまでもない。PACCON 2014 は、コンケン大学が実行委員会を組織していたこともあり、日本になじみの深い、同大学 Dr. Supalax Srijaranai と Dr. Rodjana Burakham らを通して多くの先生方が招待講演の依頼を受けてコンケンに集まった。JAFIA 関係の参加者（講演タイトル）は以下の通りである（敬称略）。

本水昌二, 善木道雄 (Mobile Chemical Analysis (MCA) Based on Computer-Controlled Fluid Chemistry), 今任稔彦 (Flow Behavior of Liquid in Microchannel Prepared on a Compact Disk



チームタイ&チームジャパン&チーム FIA 世界選抜

Type Microchip and Its Application to Flow Analysis), 受田浩之 (Maillard Reaction in Milk –Effect of Heat Treatment–), 板橋英之 (All Injection Analysis for Speciation of Heavy Metals in Soil), 手嶋紀雄 (Flow Injection Analysis System Coupled to a Diffusion Scrubber for Human Breath Analysis), 樋口慶郎 (JAFIA Effort Toward Adoption of Flow Analysis to Official Methods of Environmental Analysis in Japan)。分析化学関係では他に、早下隆士先生(上智大学学長)が招待講演を行った。海外組からはおなじみの, Gary & Sue Christian (USA), Ian McKelvie (Australia), Kate Grudpan (Thailand)の先生方も招待されていた。

メイン会場は1000名が十分収容できる広さで、初日のレセプションなどが滞りなく行われた後、その大きな部屋が、Analytical Chemistryのセッション会場に割り当てられていたことに気づき、久しぶりに講演することから逃避したくなるような緊張感に襲われてしまった。実際にはその部屋は二つの会場に区切られて使用されたが、小心者の筆者はひとり慌てふためきつつ、何とか務めを果たすことができた。

8日夜は、全参加者が集まってウェルカムパーティー(バンケット)が行われ、コンケン大学の学生さんで組織されたグループによる民族音楽の演奏や民族舞踊が披露された。いつもながらのタイ料理とともにリラックスした時間を過ごした。多数の学生も一堂に集まるパーティーであることから(?), 残念ながらアルコール類は提供されず、健全な雰囲気ではパーティーはお開きとなった。パーティー終了後は、ロビーで Christian ご夫妻、

Ian そしてタイの仲間たちと旧友を深めた。その後、部屋に戻ってから、チームジャパンはアルコールをチャージすることを怠らなかったことは言うまでもない。9日夕方、主催者側の計らいで日本人を含む招待講演者は、バスで郊外に移動して、レストランのオープンエアーのガーデンパーティーに招待された。用意されたカラオケでは、チームジャパンは期待通りの存在感を世界中の研究者に示した。さらに、受田先生の発案と音頭で、“幸せなら手をたたこう”を世界各国の歌詞でリレーして歌い繋ぎ、大いに盛り上がりお開きとなった。

また、期間中に日本でもおなじみのチェンマイ大学の Prof. Kate の60歳(日本でいう還暦)のお祝いセレモニーが、Kateの研究室の卒業生やタイのFIAグループの企画で、講演会場を使って行われた。そして、みんなでKateの健康とますますの活躍を祈念した。

PACCON 2014の後は、ほぼ全員コンケンからチェンマイに移動して、高知大学のお茶の研究グループと合流し、International Symposia on Research Towards Green Innovationへと続くのであるが、その詳細はChristian先生と受田先生の報告をご参照いただきたい。

タイを訪問するのが毎年の恒例行事のようになっている感があるが、タイのどこに行っても毎回期待を裏切らない“おもてなし”を受け、大満足で帰国してくる。本年11月30日から12月5日、福岡で19th ICFIAが開催される。海外で受けてきたおもてなしを今度は世界各国の研究者にお返しをする順番である。多数ご参加、ご協力をいただき、大いにICFIAを盛り上げていきましょう。



チームジャパン！



お世話いただいた Khon Kaen 大学のふたり